

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ・大野地区区長代表 (1名)
- ・下庄地区区長代表 (1名)
- ・児童委員代表 (1名)
- ・民生委員代表 (1名)
- ・児童センター館長 (1名)
- ・PTA会長 (1名)
- ・PTA副会長 (3名)
- ・地域コーディネーター (1名)
- ・学校代表 (4名)
校長, 教頭, 教務主任, 生徒指導主事

(2) 協議会の内容

- 開催回数：3回
開催日程：第1回 6月28日
第2回 11月27日
第3回 2月19日
- 協議内容：
- ・家庭や地域との連携を進めたスクールプランの評価, 改善策について
 - ・学校や地域における課題について
 - ・放課後・休日の児童の安全について
 - ・家庭教育の向上について

(3) 協議会における成果と課題

協議会において話題に上った事項について, 家庭やPTAで取り組むこと, 地域に協力いただくこと, 学校で取り組むべきこと等に仕訳し, 協議できたことがよかった。協議したことをより多くの学校関係者と共有し改善していく方法について考えていかなければならない。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 地域に誇るべき企業や会社があることを知り, その見学や仕事の一部を実際に体験することにより, 仕事の様子や働く人の思いを知るとともに, 理解を深める。
- 大野をよりよくするために考えたことを企業や会社側に提案したり, 再考したりすることで地域の人との交流を深める。
- 校内での活動発表会や市内小学生によるふるさと学習交流会を通して, 地域に愛着をもち, 将来ふるさとに貢献できる人材育成の素地を身に付ける。

(2) 活動の実際

①「大野っ子お宝たんてい団」(3・4学年)

4年生は昨年度, パンフレットを作成した。今年度はさらにレベルアップしたことはできないかと考えた。

企業や会社の方々と協力して, 話し合いをしながら自分たちには何ができるのかを考えるようにした。そこで,

「ポスター」「看板」「キャラクター作り」「紹介本」等を考え, 提案するために再度, 企業や会社を訪問した。

採用してもらえたもの, 直しをしなければならないものなどがあり, 指摘していただいたところは手直しをした。

3年生は学んだことを生かし, 発信するために「パンフレット」を作成した。レイアウトを工夫し, デジタルカメラによる写真も効果的などところに使用した。友達どうし見せ合い, より良いものになるようにアドバイスし合って作成した。

②「大野っ子お宝たんてい団」学んだこと・提案を地域や各校等に発信(3・4学年)



(様式3)

企業や会社の方を招待し、児童の司会進行による「お宝発表会」を行った。第1部では、「つどい」の時間に全校児童や保護者に向けて、校区内にある企業や会社が地区の誇るべきものであることを、2年間の取り組みの発表としてパワーポイントを使い、劇なども取り入れて、低学年にも分かりやすいように工夫して発表した。

第2部では、3・4年生児童が参加し、これまでの感謝の気持ちを込めて、3年生は店の自慢を書いたパンフレットを贈呈した。4年生は前回の訪問時に指摘していただいたところを手直しして再度提案した。どのグループの提案も採用していただいた。

市内7校による「令和元年度結の故郷ふるさと学習交流会」にて、2年間の取り組みの成果を発表した。企業や会社に採用されたパンフレットやポスター、チラシなどを地域の方々に発信するために、校区内のお店や郵便局、公共施設などに掲示してもらえるようお願いした。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域コーディネーター（1名）大野商工会議所 職員

- ・児童から出てきた気になる企業や会社について、実際に見学・体験を受け入れてもらえるか聞いてもらい、いろいろな職種の企業や会社になるよう調整し、5つに絞ってもらった。
- ・5つの企業や会社の見学時に、児童の活動の様子を見に来てくれた。
- ・「お宝発表会」に参加して一緒に提案を聞き、意見や感想を述べてもらった。
- ・5つの企業や会社に今年度の活動の感想を聞いたり、来年度に向けての動向を聞いたりしてもらった。

(4) 特に工夫した事項

- 児童のこれまでの校区探検などの経験と自分たちの住む地域にある気になる企業や会社について、導入で「昨年度よりレベルアップしたい」「企業や会社とコラボレーション企画を考えたい」という思いを引き出せるように話し合いに時間をかけた。
- 企業や会社とは、共通理解を図り、安全にスムーズに見学・体験活動が進められるように連絡を取り合い、双方向の交流ができるようお願いをした。
- 発信活動において、児童は、世話になった企業や会社のよさをPRし、たくさんのお客さんに来てもらえるように自分たちができることを考え、企業や会社に採用されることを願って取り組んだ。「採用されないこともある」と伝えることで、児童は様々なアイデアを出して話し合ったり、丁寧に製作したりして最後まで意欲が継続できた。

(5) 成果と課題

今年度は、企業や会社への提案が児童からの一方通行にならないように企業や会社に提案した後、今度は企業や会社から修正や提案を聞き、ともに作り上げていくことができるように取り組むことができた。

企業や会社の好意によりこの活動が成り立っていて感謝しているが、来年度も継続して引き受けてもらえるかが心配である。忙しい中協力いただいている企業や会社の方々のためにも内容をさらにレベルアップし、より良い提案ができるよう児童を支援していかなければならない。

(様式 3)

A large, empty rectangular box with a black border, occupying most of the page. It is intended for content, likely a drawing or a detailed description related to the 'Form 3' label.